

## 令和7年度第3回岡崎市地域公共交通会議 会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

令和7年10月17日（月）14時00分～16時00分

### 2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階福祉201号室

### 3 出席者氏名

#### (1) 出席者（20名）

松本	幸正	委員	（名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
松尾	幸二郎	委員	（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授）
高井	勇輔	委員	（名古屋鉄道（株））
寺澤	秀樹	委員	（愛知環状鉄道（株））
後藤	泰之	委員	（名鉄バス（株））
藤田	信彰	委員	（名鉄東部交通（株））
浅岡	林平	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部）
徳田	裕二	委員	（（公社）愛知県バス協会）
猿渡	博士	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
長坂	秀志	委員	（岡崎市総代会連絡協議会）
鷲山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会）
浅野	宗夫	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会）
松原	秀敏	委員	（六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）
原田	光一郎	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）
森本	恭平	委員	（愛知県都市・交通局交通対策課）
森	治紀	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課）
加藤	翠	委員	（愛知県警察岡崎警察署）
鈴木	晃	委員	（岡崎市 副市長）

#### (2) 出席者（意思表明書提出 4名）

井上	雅隆	委員	（東海旅客鉄道株式会社）
多々内	丈雄	委員	（岡崎商工会議所）
鈴木	勝彦	委員	（額田地域生活交通協議会）
江川	晃平	委員	（国土交通省 中部運輸局）

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

岡田 晃典（総合政策部長） 三浦 貴之（副課長） 竹内 雅晴（主任主査）  
稻垣 康彦（主査） 熊谷 大輝（主事） 澤田 和樹（主事） 安藤 寛人（主事）

5 傍聴者、随行者等

8名

6 協議事項

(1) 地域公共交通計画の策定について

地域公共交通計画の策定について、資料1-1～資料1-4に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員：オープンハウスのアンケート回答者数について、パネルのアンケートの方が紙のアンケートよりも回答しやすいように思うが、日曜日の紙のアンケートの回答者数がパネルアンケートよりも上回っているのはなぜか。

事務局：簡易アンケートの方がパネルアンケートよりも詳しい内容になっているので、パネルアンケートの方が多かった土曜日の回収結果を踏まえて、日曜日は紙のアンケートを優先的に回答いただくよう体制を変えた。

委 員：アンケートの集計方針を日によって変えるのは問題ないのか。

事務局：今回の反省を生かして、これ以降のオープンハウスではどちらかに寄せて回答してもらうようとする。

委 員：高校生アンケートP. 6 (5)について、出発時刻を聞いているが、到着時刻を聞いて、移動にかかる時間を把握するべきではないか。

事務局：指摘のとおりである。アンケートに加えさせていただく。

委 員：資料1-4②オープンハウスのパネルの中の、「公共の維持には、お金がかかります！」という資料の中で、「赤字」という記載がある。近畿運輸局のクロスセクター効果に関する資料の中で、赤字と呼ぶのは様々な誤認を招くため、ふさわしくないと記載がある。あまりネガティブにならないように表現を検討していただきたい。同様に運転手不足についても、運転手になれるチャンスなどといったポジティブな記載があるとよい。公共交通は危機ではあるが、それと同時に前を向いて進んでいきたいですというメッセージが伝わるようにしていただきたい。

事務局：いただいた意見を踏まえながら修正を検討していく。

委 員：ご指摘はもっともだと思うが、一般市民としては赤字のほうがわかりやすいかもしれない。そのあたりも踏まえて検討していただきたい。

実際に現在運転手になるチャンスであるのか。

委 員：手を挙げていただける人が増えればチャンスと捉えることができるし、興味を持つていただけるかたが増えればありがたい傾向である。

委 員：保護者に対して送迎が負担か聞くことになっているが、高校生に対しても負担をかけていると感じているかどうかを聞いてほしい。

事務局：承知した。修正を検討する。

委 員：高校生アンケートについて、今回の対象としては、岡崎市内の高校に対してのアンケートになるが、市外の高校に通っている岡崎市民へ意見は聞かないのか。

事務局：今回は岡崎市内の交通を意識したものなので、岡崎市内の高校に通う高校生を対象にアンケートを行う予定である。

委 員：岡崎市外の高校に通う場合でも、岡崎市内を通らないわけではないわけではないので、意見を聞くべきだと思う。駅への送迎が公共交通や一般の交通に対して非常に負荷をかけているという状況の中で、子どもたちを駅まで送るという行動に対してもフォーカスを当てるべきではないかと思った。

事務局：確かにその通りであるが、他市の高校に通っている岡崎市民へのアプローチが難しいところである。

委 員：国勢調査で通学先や通学手段も出ていると思うので、そちらで捉えることができるかもしれない。

事務局：承知した。

次期岡崎市地域公共交通計画における地域交通の目指す姿及び基本方針について、資料1－5に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員：情報提供である。P. 3 共同化、協業化について、触れていただきてありがたい。全国各地で輸送資源が不足しており、国土交通省では現在、共同化、協業化を推進している。この内容について、国土交通省からアンケートを依頼しているので協力いただきたい。

委 員：一岡崎市民としての意見となるが、岡崎市の公共交通の弱点は渋滞であり、バスの遅延が大きいことがある。感覚もマヒしているので、バスが10分遅れることに何とも感じていないが、他の地域では5分遅れることが悪とされている地域もある。解決のために、まず、岡崎市には、駅など結節点の機能強化をしていただきたい。送迎車がロータリーをふさいでしまうのが、渋滞の原因となっている。また、「高い」サービス水準と「一定の」サービス水準という言葉が出てくるので、これらを分ける明確な数字を示しながら、計画策定を進めていただけるとよい。それから、愚痴にはなるが、JR岡崎駅から電車で降りるとバスが出発してしまった後である状況があり、結果として、バスに乗れないという理由で送迎に流れてしまっているので、各公共交通機関が連携して、乗継をスムーズにできる交通づくりをしていただきたい。

事務局：サービス水準について、バスの時間帯ごとの定義づけは必要であると考える。また、

頻度については感覚での議論になってしまっているので、ある程度見える化をしながら進めていく。また、乗り継ぎ等に関しても、行政、交通事業者が連携しながら進めていく必要がある。

委 員：今後の方針を決めるのに公共交通だけで解決できる問題ではなく、自動車の使い方も考えないといけないと思っている。しかし、そうなるとこの場だけで決めるわけにはいかないが、その辺はどう考えればよいか。

事務局：おっしゃるとおり、公共交通だけでは解決できない課題もあると認識している。そこについては、市全体の計画の中でどう位置付けていくかなど、他部局との連携が必要である。公共交通計画に落とし込むところと、その他の部局と連携を図りながら考えていくところと、ある程度住み分けが必要だと考える。

委 員：他の施策との連携を進めていくうえで公共交通だけでは決められないが、それをどこがコーディネートするのか。

事務局：総合計画の企画部門に情報提供しながら、進めていくことになる。

委 員：総合計画には公共交通についてどのような記載があるのか。

事務局：具体的な記載はされていない。

委 員：そこは総合計画で位置付けなければいけない。例えば、「歩いて暮らせるまち」や「環境負荷の少ないまち」と総合計画に掲げている自治体もあるが、そのような内容は記載されていないのか。

事務局：「ウォーカブルなまちづくり」や「ゼロカーボン」など、親和性のある施策は記載があったと思う。

委 員：承知した。一方で、市民のかたは車で移動しやすい環境を望んでいると思う。そういった政策と実態に乖離があるので、いかに政策の方向に向けるかがとても重要である。

委 員：地元が好きなのに、就職先はまちに出たいという学生がおり、理由を聞くと不便だからと言っていた。将来に向けて公共交通を便利にしておくことは、岡崎市で若い子に住み続けてもらうという意味ではすごく大事なことである。

委 員：バスに乗ろうとバス停に行った時に、時間通りに来ないのは良いが、普通のバス停では、もう行ってしまったのか、遅れて来ていないのかわからない場所がある。そこがわからないから、車で行くという選択になっていると思う。ぜひその辺りを改善してほしい。

委 員：おっしゃるとおり、バスは不便ではなく不安な乗り物である。DXを活用して解決できる問題だと思うので、ぜひ検討いただきたい。

委 員：バスの遅れる理由としては、乗客がバスの乗降に時間がかかるて遅れていることもある。乗客の意識が改善されれば、渋滞が解消されると思う。

委 員：乗降に時間がかかるのはおっしゃるとおりであるが、お客様に迷惑をさせないのが大前提である。乗客の安全を優先していることをご理解いただきたい。

また、先ほどのバスがもう行ってしまったのかまだ来ていないのかという件については、バスが定時刻より早く出発することはない。バスロケーションシステムでもお知らせしているので、携帯電話を使いこなして今後ご利用いただくとありがたい。

委 員：JRの事故があり岡崎駅から東岡崎駅までバスを利用した時に、バス停が多い印象を持った。

また、JR岡崎駅から東岡崎駅までの幹線ルートの自動運転に期待している。

委 員：車いすでバスを利用すると「時間がかかりますので、申し訳ありません」というアナウンスをされていた。知的障害の子を含めて、市民の人の理解が必要である。

また、阿知和地区では、新しくインターチェンジと工業団地ができているが、ここ半年で既に大渋滞をしており、これが完成するとどうなるのか不安である。

委 員：名鉄バスに車いすをワンタッチで固定できるような仕組みがあると運転手が楽になりスムーズになるのでは。

委 員：おっしゃるとおりだと思うが、今のバスの構造的から、車いすをしっかりと固定するように運転手に教育している。ワンタッチで固定できるようなものを出しているメーカーもあるが、現状は構造的に時間を要してしまうことをご理解いただきたい。また、「時間がかかります」というアナウンスについては、スムーズな乗降のために、東岡崎などの発着担当者に無線を入れる運転手もいたが、不快に思われるようであればアナウンスしないようにと過去に指導をしたことはある。

委 員：前の会社では車いすの乗客から、時間がかかって迷惑をかけるので固定しなくていいですと言われたが、安全の観点からやらなければならないと思っている。

委 員：情報共有であるが、トヨタ自動車では車いすをワンタッチで固定できる機械を作製している。今使用している車両に後付けとなると大がかりな改造になってしまいますが、これが標準装備になれば良いと思う。ただし、車いすの形状によって固定できないこともあるが、車いすのメーカーとユーザーが固定できる箇所を用意する取り組みも少しずつ進んでいる。

事務局：工業団地の渋滞について、工業団地の造成はインターチェンジや周辺道路の造成を予定しており、工業団地の新設によって負荷がかかる以上に渋滞が緩和されると計算しているので、少しお時間をいただきたい。

## (2) 額田地域における公共ライドシェア導入に向けた検討状況について

資料2に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員：「公共ライドシェアがよくわからない」や、「実際のニーズについてよくわからない」など様々な課題があるが、今後のワークショップで来年度の実証に向けて進めていきたい。「葉」の交通であることを市民に向けてしっかりと発信していきたい。

委 員：公共ライドシェアに関わらず地域の交通手段をどのように確保するかを皆さんで考

えていただくことは大変重要だと思う。ただ、既存の公共交通と対立してはいけないので、既存の公共交通との調和を意識しながら進めていただきたい。

(3) 令和7年度岡崎市公共交通ポスタークールの結果について

資料3に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員：次回のオープンハウスでも飾られるのか。

事務局：前回飾られた3校以外の応募作品と受賞作品について、アピタで掲示予定である。

委 員：承知した。より多くの応募があることは、多くの人に公共交通に興味を持ってもらうことになるので、こういった多くの応募があるような取り組みを引き続き検討してほしい。

(4) 日本商工会議所青年部 第43回全国リーダーズ研修会愛知岡崎会議の開催について

資料4に基づき説明

<以下、各委員の意見等>

委 員：通勤のバスとのバッティングによる混乱が起きないかが不安である。

事務局：その点については、一定の調整ができているとご理解いただければよい。

委 員：移動時間が7:30～10:00とあるが、移動のピーク時間教えてほしい。

事務局：開会式の開始時間である9時を目指して中央総合公園に向かうことが予想されるので、その前1時間がピークになってくるかと思う。

委 員：7:30から9:45まで10分間隔で、東岡崎の南口ロータリーに臨時バスが並ぶ。部会長から協力してほしいと言われたので、タクシー業界としては協力する方向でいる。タクシーはその時間、東岡崎の南口ロータリーにはいないので、利用する場合は電話予約となる。

委 員：調整は完了しているという認識でよいか。

事務局：土曜日の民間の送迎バスはわからないが、それ以外の調整はできているという認識でよい。

## 7 その他

委 員：名鉄バスの現状を報告をさせていただく。ドライバー不足は以前から伝えているが、岡崎モデルの第1号として4月に入社した外国人が2名、既にバスに乗務している。また、インドネシアのかたを3名採用し、現在運転免許を取得しているところであるが、日本人の採用はおぼつかなく、要員不足はまだ続いている。10月1日より、岡崎市内の一帯ダイヤを合理化・削減をさせていただいた。ご不便をおかけするが、要員不足への対応と効率化を図るものである。他路線も厳しい状況であり、岡崎市に補助要請をするなどし、ダイヤ・路線の維持に努めている。

委 員：自転車の利用促進について、市としては利用を促進したい思いがあると思うが、自転車利用者としては通行空間の安全・快適という部分の他に、駐輪場の問題があると思う。駅の駐輪場の料金の問題や、バス停まで自転車を使用したいが駐輪場がないため自転車を使用しないとか、そういう不満や意見を聞けるとよいのではと思った。

事務局：自転車のアンケートについては、別の部署が所管になるので、ご意見を所管課に伝えさせていただく。

委 員：岡崎市におけるタクシーの状況について報告させていただく。一昨年から会社が減っており、現在の岡崎市内のタクシー会社は6社 197台であるが、乗務員不足なのか結構な台数が休車をしている。営業状況的にはコロナ前に比べて、約90～92%になった。昼の部は110%強で、夜の部は30%強である。この変化としては、お客様のお酒の飲み方が変わり家飲みが増えたことがあると思う。

乗務員はコロナ前に比べて増加傾向にある。最近の傾向として、20～30代のかたは自分の時間が欲しいとのことでアルバイトでの就業を望んでいる。

また、2種免許の取得の際、20か国語で取得可能になったが、この辺りの教習所では外国語対応をしていないので、この問題を解決できればありがたい。

委 員：自衛隊の若年定年制を活用してドライバーを提供することもできる。

委 員：登録しているが来ない。皆さん地元に帰りましたが。

委 員：現状、タクシーに対する支援制度がない。地域からタクシーがなくなったら大変なことなので、市民の生活を守るという意味で行政としてどこまで関与できるかは考えていく必要があると思う。

委 員：岡崎市と愛知県でエコモビのキャンペーンが11月20日から1か月間行われるので、参加・周知をお願いしたい。また、このキャンペーンに伴い、セミナーも開催予定なので、併せて、参加・周知をお願いしたい。

委 員：三井アウトレットパーク岡崎の開業に伴い、10月31日11月末までの1ヶ月間、最寄駅である本宿駅に特急の一部列車を臨時停車させ、利用者の利便性を図る。

委 員：ホームページやセントエックスの検索には反映されないので。

委 員：検索エンジン元との調整の都合で、反映のハードルが高い。

委 員：ぜひとも反映すべきである。

## 8 連絡事項

次回会議（令和7年第4回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —